

石狩市浜益区
地域協議会広報



浜地協だより

《発行》浜益区
地域協議会事務局
〈支所地域振興課〉
Tel 79-2029
Fax 79-3702

[H18.5 VOL.1]

「地域協議会」 ってなに？

石 狩市では、合併に伴い厚田区と浜益区の区域に「自ら行う地域づくり」を実現させるため、「地域自治区」を設置しました。

この地域自治区には地域の提案やアイデア（地域意見）を検討し、取りまとめ、新市へ適切に反映させるための組織として「**地域協議会**」を置いてあります。

「浜益区地域協議会」は、区内各種団体の推薦を受けた方、識見を有する方や一般公募による方の総勢15名の委員で構成されており、委員の皆さんをご紹介します。

注）地域協議会は、地域自治区の議会ではなく、審議会的な組織です。

浜益区地域協議会委員名簿

区分	団体名等	氏名(ふりがな)	地区
1号	浜益村自治会連合会	石橋 千春(いしばし・ちはる)	浜益区群別
		佐々木 友治(ささき・ともじ)	浜益区実田
	北石狩農業協同組合	後藤 崇(ごとう・たかし)	浜益区柏木
	石狩湾漁業協同組合	田中 一房(たなか・かずふさ)	浜益区浜益
	浜益村商工会	須藤 勝雄(すどう・かつお)	浜益区浜益
	浜益村観光協会	岸本 教範(きしもと・よしのり)	浜益区柏木
	浜益村社会福祉協議会	田端 眞佐美(たばた・まさみ)	浜益区川下
	浜益村文化団体連絡協議会	佐藤 文彦(さとう・ふみひこ)	浜益区川下
2号	(識見を有する者)	岸本 アイ(きしもと・あい)	浜益区柏木
		石橋 ミツ子(いしばし・みつこ)	浜益区群別
3号	(一般公募)	北嶋 富作(きたじま・とみさく)	浜益区毘砂別
		田中 照子(たなか・てるこ)	浜益区浜益
		立浪 ゆかり(たてなみ・ゆかり)	浜益区幌
		木村 武彦(きむら・たけひこ)	浜益区幌
		寺山 広司(てらやま・こうじ)	浜益区柏木

名簿中の「団体名等」は、推薦を受けた当時の団体名です。

【選任】区域内に住所を有する者のうちから市長が選任

【定数】15名以内

【構成】公共的団体が推薦する者 識見を有する者 公募に応じた者

【任期】2年(再任可) <平成17年10月1日~平成19年9月30日>

【役割】地域意見の取りまとめ 地域住民との協働推進
自己決定・自己責任による地域経営と特色のある地域づくりの実現

【審議事項】支所が所掌する事務に関する事項の審議

本庁が処理する地域自治区の事務に関する事項の審議

地域住民等との連携強化(協働)に関する事項の審議

【意見聴取事項】新市建設計画に関する事項への意見

過疎地域自立促進市町村計画に関する事項への意見

地域振興のための基金の活用に関する事項への意見

諮問に関わらず意見提出可

「浜地協だより」は、地域協議会で話し合われた事柄や活動内容をみなさんにお伝えするため、定期的に発行していきます。

【お詫び】



「第1号」の発行が遅くなり、申し訳ありません。

第1回 浜益区地域協議会

【とき】H17.10.18(火)15:00～17:00
 【ところ】支所 第1会議室
 【委員】<出席>13名 <欠席>2名
 【傍聴】5名
 【主な議題】
 会長及び副会長の選任
 石狩市過疎地域自立促進市町村
 計画について(意見聴取)

合

併後間もない平成17年10月18日、記念すべき第1回浜益区地域協議会が支所

第一会議室で開催され、冒頭、田岡市長より委員委嘱依頼を兼ねた挨拶が述べられた後、大原区長より挨拶とあわせ担当職員、委員が紹介されました。休憩を挟み、本所合併対策室担当より「地域自治区及び地域協議会概要」が説明された後、役員(会長及び副会長)を互選しました。

続いて、田岡市長より石橋会長に対し「石狩市過疎地域自立促進市町村計画」(案)についての意見聴取書が手渡された後、本

所企画調整課担当より計画案が説明されました。協議された内容等は、概ね次のとおりです。



田岡市長のあいさつの様子

市長あいさつ



石狩市長
田岡 克介

皆

さん、こんにちは。初めての地域協議会で、皆さんにとっては期待半分、いったいどう

なるのだろうかという思い半分だと思えます。実は私も全く同じで、つい二日前前に総務省の方に行つて地域協議会の正式モデルがあったら紹介して頂きたいと言つたところ石狩市がモデルなのですよと言われたように、全国でこの協議会を創つたところは、どういふ協議会が創られていくのか法律にも規則にも書いてないのです。結局は今日、委嘱状をもらいました皆さんが、実は受け取つたのではなく自分達がこの協議会を育てるのだということ、自らするのだという性格のものだと思つております。地域協議会の流れ、基本的な考え方については、後程、担当の職員から説明があると思えますので私はそういうシステムを申し上げる前に、何点かお話をさせて頂きたいと思えます。

やはり、この合併というのは与えられたものではなく、特に浜益村に於いては住民投票を行ったという結果の選択であります。住民が役所やあるいは旧村長や新しい市長から、その村のあり様を示されるということよりは、むしろどういふ村を創りたいのかを第一にその基盤というものは住民にあるのだということ強く認識して頂ければと思つております。

人口の超長期推移のグラフを示して

これは縄文時代から始まって日本の国の人口状態をずっと一遍に書いてあり、非常にわかりや

すいのですが、右肩の2006年に向かつて明治維新からあるいは戦争戦後において日本の人口率は短期間に集中的に伸びております。明治維新で300万人しかいなかった日本の人口が2006年にはその四倍の人口になっていふという事実であります。しかし、2006年以降をピークに日本の国は人口が減っていくという流れを既にこの図は示している訳ですが、北海道、2006年のピークはもう既に来ており、下降の数値が出ていふというのが実態でございます。そうすると、私達はこの猛烈なスピードの時代に、むしろ、この60年間で、この新しいシステムというものを作つてまいりました。ところが同じスピードで人口が減るといふことを考えた時に、従来の手法は殆ど現実に持たなくなりました。例えば、みんなでお年寄りを支えるのだという仕組みが出来上がつている時に、それがもう間もなく30人に一人という人口構成となり、労働人口がどんどん減つてくるので、相当その内容が変質しない限り総生産力が落ち、しかも、相当なスピードで落ちていくだろう。そうすると、従来の手法は、殆ど通用しないという現実が来ておりますので、私達はこれからこういう現実をきつちり見極めながら、新しいシステムを作つていくということでないかと思つております。その一つの選択が、実は合

併ではなかったかというふうに考えており、まさにこの地域協議会が新しい村づくり、新しい地域づくりというものに時代背景を含め、十分考えていく役割を持っているのではないかと思っております。

右肩上がりで税収がどんどん伸びた時には、いずれ税金が入ってくる訳ですから、約束事が守れるということ。様々な事業というのは右肩でどんどん増えていきますから、そのことは間違いなく戦後の冷え切った日本を立ち上げられたことは事実であります。東京から発するその情報源は、稚内から沖繩の地域まで同じ均一化をということを求めてきましたが、その時には、地域の特定とか個性というよりは、日本の全国レベルを上げるという意味であったと思いません。しかし、どうやら今になって見ますと、そのピークは成熟した社会に於いて、そのピークを超えて全道が同じというのはおかしいじゃないかという時代を迎えてきております。役所が持つ情報や政策能力というのは、どうやら、限界にきているのではないだろうか。私たちは役所一辺倒で役所の論理でやってきたということはもう終わって、政策リスクというものをいかに回避するか、限られた財源をどう使うかというその政策の優先度を決めるのは市民なのだ、利用者なのだ、そして消費者である市民がそこをやるのだという

仕組みを変えていかなくてはならない。その辺に於いても協議会の役割というのは、単に提言、アイデアを出すという域から超えて、実践のモデルを作っていくのだというところまで責任を持つべきではないかと思っております。

市役所或いは支所は、コーディネート役割と情報提供という役割は大いにやらねばならないのですが、協議会というのは、非常に大きな役割になるのではないかと思っております。また一方で、情報というものが当然なければ、物事を考えていくのは非常に大変不都合です。情報と開示というのは徹底して進めていかなければならないと思っております。様々な情報を素早く、そしてわかりやすい情報に変えていかななくてはならないということ、情報の更なる開示の推進をするというのは私たちの役割ではないかと思っております。

構造改革を含め、尚、一層大変厳しい時代に立ち向かうことになると思いますが、しかし、その厳しいことだけを憂いていたのではどうにもならないので、私はこれからの当地域における発展性というのは観光にあるのではないかというふうにも思っております。

もとより、観光は少なくても、未開の部分という未情報化と言っている部分が沢山あります。私も今年、さくらんぼを4回食べに

来ました。本当にこんな美味しいさくらんぼがこの地域にあるとは知っていました。実際に来てみて驚きもありますし、全部お金に変わらないで、商品化されないのは多少気になりました。採る人の手が足りないという話を聞いた時に、石狩市が持つておりますグリーンサポート事業をこの地域に導入すると非常に生産的に人手が期間集中出来るのではないかというようなことを含め、考えていければと思っております。

また、観光開発というのは、そのホスピタリティを持つた観光地域を作っていくと同時に豊かな資源を有効活用していくということ。そして、みんなで一緒に地域の価値を作り上げるのだという、その観光と一時資源を結びつける観光開発は非常に大きな意味を持つていないかと思っております。この協議会は役所に言われたから、市長から委嘱状をもらったから、市の仕組みの中でやるのではなくて、ここの協議会は自分たちが何をこの浜益村でしようとしているのか、何を目指すのかということをきっちり区民に向かって、メッセージを発する、そして新しい市民参加システムの活用ということが必要だと思えます。

最後に、石狩市において私が5年前に就任して一番先に取り組んだのは、「市民の声を活かす条例」という市民が自ら政策決定に参加

するということを保障し、お話ししたい時に市に向かって意見を言うことは保障されて、そして、お話ししたことは役所がシステムできちんと受け止めて検討するということを保障しております。お話をするという機会が実は自由な日本において、均一化されたシステムのうちにはなかなかありません。その条例を上手に使って、しかもこのような場がありますので、十分実力の程を発揮できるのでないかとご期待を申し上げご挨拶に代えさせていただきます。

これからも、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

会長及び副会長の選任

会

長に

石橋千春 氏（群別）、

副会長には

北嶋富作 氏（毘砂別）

がそれぞれ選任されました。



会長あいさつ



石橋千春さん
(浜益区群別)

それでは、一言ご挨拶を申し上げます。ただいま会長に選任を頂きました石橋です。宜しくお願ひします。先程事務局から地域協議会の役割のご説明を受けましたが、何しろこのような経験は初めてでございます。大変貴重であると思っております。この説明を聴くのは2回目でありまして、前回は各自治会長それから各団体の代表者が出て説明会がありました。その時は団体の長でなくとも良いのだと、若くて行動力がある者に就いてほしいと、今日はそのようには言いませんでしたが、私としては何か出ていいのかなという感じがしますが、今回委員になって会長という大役を仰せつかりましたけれど、何か納得がいけない気持ちで今挨拶している訳です。

私もはよく子育てして、子ども達に自分のことは自分でせよと、それでどうしても駄目なら親が手伝いするよ、とこう言って子どもを育てた記憶がございます。これ

からこの浜益区も、やはり自分達でできるものは自分達でやっつけていかなければならないのではないだろうかかと、そんなふうにご考えております。

地域の意見の取りまとめ、特色ある地域づくりの検討、地域住民との協働の検討などにつきまして、合併における、浜益区という新しいかたちの地域経営に、地域ぐるみ、そして浜益支所一体となつて取り組んでいかなければならないと思ひます。幸ひ浜益区は、自治会組織もきちんとしております。婦人会組織も浜婦連というきちんとした会がございます。その2つが言わば車の両輪のように、各地域で動いているのではないだろうかと思ひます。

その中で、やはりお祭りにしても、葬儀にしても、或いは敬老会等にしても、やはりお互い助け合つてやっているとすることが大きな強みではないかと思ひますし、特に回覧板、大体一週間に1回ぐらい回覧板というのは来ます。その回覧板を回しながら、老人世帯、或いは独居老人のところを、「元気かな?」、「どうしている?」、といった声かけ運動をしていることによつて、やはり老人たちも安心していれるのかなと、そういう助け合いの精神というものを大事にしていかなければならないのではないかと思ひます。新しい時代の地域づくりには区民全体が関わつても

らえればと思つております。今回、私の大先輩であります北嶋さんが副会長に就任していただきました。北嶋さんの力を借り、そして委員の皆さんの力を借りながら浜益区発展のため微力ではありますが全力で頑張りたいと思ひますので、宜しくお願ひいたします。

石狩市過疎地域自立促進市町村計画について (意見聴取)

市 長より意見を求められた石狩市過疎地域自立促進市町村計画(過疎計画)について、担当職員より策定の経緯、必要性、内容等説明を受けました。計画書(案)の配付が当日だったこともあり、各委員持ち帰つて検討することとし、次回までの継続協議と致しました。

以上



第2回 浜益区地域協議会

- 【とき】 H17.10.26(水)13:00~14:30
- 【ところ】 支所 第1会議室
- 【委員】 <出席>12名 <欠席>3名
- 【傍聴】 2名
- 【主な議題】
 - 石狩市過疎地域自立促進市町村計画について(意見聴取)<継続>
 - 石狩市過疎地域自立促進市町村計画に対する意見(案)について
 - その他~今後の地域協議会のあり方について意見交換(フリートーク)

第

1回目から中七日の短期間での開催となつた第2回浜益区地域協議会は、平成17年10月26日(水)、支所第一会議室で12名の委員が出席し、開催されました。

第1回目の協議会で、市長より意見を求められ継続協議となつていた石狩市過疎地域自立促進市町村計画(案)について、検討期間が不足したものの、計画策定(市議会提案)までの期限が迫つていたことや、浜益地区の振興には重要な過疎計画であることなどを鑑み、同計画案に対する意見を取りまとめ、

石橋会長から大原区長に意見書が手渡されました。

その後、経験のない協議会の運営に不安いっぱい委員が多いことから、今後の地域協議会のあり方について自由な意見交換が行われました。

協議された内容等は、概ね次のとおりです。



石橋会長より大原区長へ過疎計画(案)に対する意見書(回答)が手渡されました

立促進市町村計画(案)について、内容等を検討しました。

同計画は、計画期間を平成17年度から平成21年度までとしており、旧浜益村、旧厚田村二村でも策定していた、いわゆる過疎計画にあたるもので、過疎地域である旧二村と合併した石狩市においても計画策定が必要となったものです。

計画の内容は、旧二村で既に策定していた同様の計画を単に一つにまとめ上げたもので、過疎を脱却するための「産業の振興」、「交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進」、「生活環境の整備」、「高齢者等の保健、福祉の向上及び増進」、「医療の確保」、「教育の振興」、「地域文化の振興等」など多岐にわたる施策や事業など地域振興策が盛り込まれています。

全体協議の中では、若干の文章表現の変更や字句の訂正等の意見は出されたものの、当協議会の意見としては原案の内容どおりで概ね了承いたしました。

市

長より意見を求められていた、「石狩市過疎地域自

石狩市過疎地域自立促進市町村計画について
(意見聴取)へ継続協議

石狩市過疎地域自立促進市町村計画に対する意見(案)について

意

見を求められていた「石狩市過疎地域自立促進市町村計画」(案)に対し、浜益区地域協議会としての回答を取りまとめ、その意見書が石橋会長から市長の代理である大原区長へ手渡されました。
意見書の内容は、次のとおりです。

石狩市過疎地域自立促進市町村計画について(回答)

平成17年10月18日付け石企調第113号で意見聴取のあった、石狩市過疎地域自立促進市町村計画について協議した結果、本協議会として、その内容は概ね妥当と判断します。

なお、本計画にて示された内容については、浜益区の地域振興に寄与されることを考慮のうえ、計画的に推進されることを期待します。

今後の地域協議会のあり方について

(意見交換)フリートークキング

予

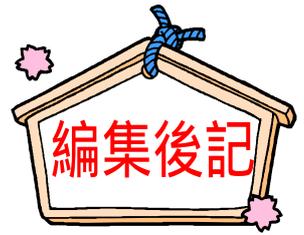
定されていた協議も終わり、最後に、今後の地域協議会のあり方についてフリートークキング形式で意見交換を行いました。
経験のない地域協議会の運営には、一応に不安いっぱい委員が多く、始まる前は座談会程度のもりでいたが過去二回ではそんな雰囲気ではなかったとの声も...。
初めての導入となる地域協議会の運営には決まった形式はなく、自分たちで築いていくもの。もう少し、摸索は続くのでしょうか。

以上

ちよっと!! データより...
交通事故死ゼロ1000日達成!!

浜益区内における「交通事故死ゼロ」は、旧浜益村時代のH15.7.14から数え、今年4月8日をもって「1000日」を達成しました。これからも交通安全に心がけ、さらに記録を伸ばし、安全で住みよい地域を創りましょう。





編集後記

昨年10月からスタートした「浜益区地域協議会」も三月までに計七回開催されました。協議内容等を区民の皆さんにもお知らせできるように、今年度より浜益区地域協議会広報「浜地協だより」を発行することといたしました。

まずは、第一号で1回目、2回目の協議会の様子をお伝えします。今後、3回目以降の様子も編集・発行し、遅れを挽回したいと考えておりますので、ご理解頂きますようよろしくお願い致します。

浜益区の地域振興のため、皆さんの声をこまめに、最寄りの委員や事務局にお届けください。この浜益区は地域みんなの手で創り上げていきましょう。

「浜地協だより」 発刊に寄せて



浜益区長
大原 嘉弘

浜益村が昨年10月1日に合併してから早いもので半年が過ぎました。私はまだ役場を支所、浜益村を浜益区と言つことに慣れなく、電話などではよく言い間違いをします。直すにはもう少し時間がかかりそうです。

さて、合併後、浜益区には各団体や公募による方で地域協議会が設立され、浜益らしい地域づくりを目指してこれまで7回に亘り審議を重ねて来ました。

協議会は、地域の皆様の声を聴きながら協働でまちづくりを推進して行きます。今回発刊される「浜地協だより」は、地域協議会で話し合われたことや活動を広く区民の皆様に知つて

頂くと共に、浜益区の身近な情報も盛り込んで、区民参加型の楽しい紙面にして行きたいと考えております。ここで平成18年度の浜益区の地域自治区振興事業や新規事業などの予算についてご紹介いたします。

地域自治区振興事業は、合併時に地域づくり基金(一億円)を財源として実施される事業であります。本年度は区民カレンダールの製作や区民スポーツフェスティバル、和牛生産推進事業が予算化されました。今後とも地域協議会の議論を頂きながら地域づくり基金を活用して行きたいと思っております。また、新規事業では観光振興を図るためのイベントとして、浜益ふるさと祭り」にあわせ、林道マラソン&ウォーキング大会を実施することとなり、地域が一丸となって取り組みたいと思っております。皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。浜地協だよりへ皆様からの情報をお待ちしています。

身近な話題より: 元気に!! 新1年生



担任の先生に先導され入場する新1年生。まさしくピカピカに輝いていました。

ようやく春の暖かさを感じ始めた4月6日(木)、今年も浜益小学校(小林隆校長・児童71名)に10名男子4名・女子6名の新1年生が入

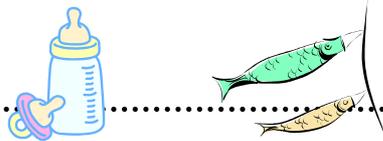
学しました。保護者に手を引かれ、ちよっぴり戸惑い気味のこども達の学校生活がいよいよスタートしました。地域の宝、輝く星達、遅しくそして優しく育て!!

おくやみ (平成17年8月~)

氏名	死亡年月日	年齢	住所
柿崎吉之助さん	H17. 8.29	(85)	川下
古川 忠 さん	H17. 9.12	(94)	浜益
山本喜太郎さん	H17.10.13	(90)	川下
成田楚耶子さん	H17.10.16	(67)	実田
佐藤 哲雄さん	H17.10.19	(60)	群別
田端 鐵雄さん	H17.10.23	(88)	川下
佐藤 正治さん	H17.10.28	(76)	幌

およろこび (平成17年10月~)

氏名	生まれた日	父 母	住所
阿岸 大翔くん	H17.10.30	哲広 亜衣	川下
齋藤 子龍くん	H18. 1. 4	研二 美由紀	実田
吉弘 知来くん	H18. 2.15	文人 美奈子	柏木



浜益区の人口・世帯数 (平成18年3月末現在)

人口 [61,161]
2,027 人
男 [29,792]
945 人
女 [31,369]
1,082 人
世帯数 [24,902]
989 戸
上段の [] は石狩市全体

おくやみ (つづき)

高橋 公治さん	H18. 3. 5 (83)	川下	柴野 一二さん	H17.12. 5 (89)	浜益
傳法谷としさん	H18. 3. 5 (91)	浜益	牧野 良弘さん	H18. 1. 6 (92)	群別
立浪 郁彦さん	H18. 3.19 (49)	幌	高森ハル子さん	H18. 1. 7 (67)	浜益
眞田 テルさん	H18. 3.19 (85)	川下	古川トモ子さん	H18. 1.18 (90)	浜益
内山 末一さん	H18. 3.27 (83)	浜益	中村 夕ヶさん	H18. 2.14 (81)	群別
佐藤賢太郎さん	H18. 4. 9 (94)	柏木	佐藤 政治さん	H18. 3. 4 (86)	川下